

日本大学 国際関係学部

1978年、グローバル化の本格的な到来を見通し、日本で最初の国際関係学部として創設された日本大学国際関係学部。高度な異文化理解と外国語運用能力を身につけ、世界を舞台に活躍できる人材を育成します。



■大学生
東方俊樹 さん



■先生
神山真理 先生



■卒業生
山田直人 さん

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

日本大学における国際関係学部の位置づけを教えてください。

■先生

国際関係学部は日本大学の16学部の中の一つですが、日本で最初に国際関係分野の学部を開設したのは本学であり、相応の歴史があります。国際関係学部には国際関係を学ぶ国際総合政策学科と、国際文化や教養を学ぶ国際教養学科が設置されています。日本大学の強みは、学生それぞれの興味や関心に合わせて他学部・他学科の講義を履修できることです。また、学部名に「国際」がつくだけあって、いろいろな国や地域を専門とする先生がいらっしゃいますので、日本だけではなく、それぞれの国の政治や文化、国際交流などについて重層的に講義を受けることができます。

言語に関しては2016年度からカリキュラムが若干変わり、1年生は英、仏、独、スペイン、中、韓の6言語、2年生以降はロシア、スワヒリ、アラビア、モンゴル、インドネシア、ベンガル、マレーの7カ国語が加わり、全部で13カ国語から選択することができます。1年生で主要言語を学び、2年生からさらに興味ある特定言語を加え、学んでいくということです。主・副言語というスタイル



ではなく、自由に好きなだけ学べるのが特長です。興味を持って、どんどんチャレンジしてほしいですね。

留学も盛んに行われているようですね。

■先生

国際交流プログラムの1つであるティーチング・インターンシップ・プログラムは大変人気があるプログラムです。例えば、ニュージーランドやモンゴルに行って現地の学校で生徒たちと交流を持ったり、日本の文化を教えたりしています。長期間の留学が難しく、2～3ヶ月間で留学を経験したいといった学生のニーズに応じています。もちろん留学制度については短期、中期、長期の多様なプログラムが盛んに実施されています。日本大学や国際関係学部と提携関係にある海外の様々な提携校の中から、留学先を自由に選ぶことができるのも大きな特長ですね。

また、国際関係学部独自の取り組みとしては、海外ゼミナールが挙げられます。学生はゼミナールに所属しますが、ゼミナールのテーマについての研究を海外で行います。留学のような大がかりなものではなく、ゼミナールの仲間や先生と一緒に、例えばボランティア活動や企業見学、大学訪問などを通して研究テーマを深めていきます。その期間はゼミナールにより異なりますが、長いゼミナールでは夏休みの1ヶ月間、短ければ1週間という場合もあります。語学の習得が様々な場で生かされています。

国際関係学部の2学科の特長を教えてください。

■先生

国際総合政策学科は、世界の政治、経済、法律、国際協力について学ぶことがメインになっています。国際社会で活躍するために必要な問題解決能力などを身につけることを目的とし、どちらかというビジネスの視点で学ぼうという学生が在籍しています。

国際教養学科は、世界の国や地域の文化を学び、高いコミュニケーション能力を身につけた人材を育てることを目指します。また、国際教養学科では教員免許状が取得できますので、中学・高等学校の英語の教員を目指して入学する学生もいます。玉川大学通信教育部との連携により、小学校教諭二種免許状を取得できる小学校教員養成特別プログラムもあります。

グローバル化がますます進むこれからの時代において、国際関係学部で学んだこと、留学で経験したことは、将来、教員になるための基礎になることばかりです。児童や生徒の関心を引く魅力的な英語の授業ができる教員が、本学科からこれからも生まれてほしいですね。

●大学生活について

国際関係学部へ入学したきっかけを教えてください。

■大学生

「国際」という言葉に惹かれました。私は、山に囲まれた盆地で育ったことも影響しているのか、知らない場所に直接行って、知らないものを見てみたいという気持ちが強く、国際関係の学部を志望しました。

■卒業生

私は高校生の頃に1ヶ月だけですが留学の経験があり、視野がとても広がりました。この経験から、海外に目を向けて様々な視点から経済や経営を学びたいと思い、日本大学の国際関係学部を選択しました。出身高校が日本大学三島高等学校だったこともあり、担任の先生



や両親からも「良い大学だよ」と薦められ、迷うこともなく入学しました。

入学されてからの印象はいかがでしょう。

■大学生

私にとっての「国際」とは、母国以外の場所で母国語ではない言語を使って、他国籍の人たちと話すイメージでした。実際に入学してみると、友人の中には国際金融や政治、経済に興味を持っている人もいて、「国際」との関わり方は様々なのだなという印象を持ちました。私は、ボランティア活動や人との交流を通して、繋がりを作りたいという気持ちがありました。

■卒業生

高校生までは、基本的に同じような経歴をもち、同じような環境に育った同級生ばかりでした。しかし、大学では同学年でも年齢に幅があったり、様々な考え方や価値観をもった学生がいたり…、高校との違いを感じましたね。

国際関係学部には、どのような学生がいますか。

■先生

様々な学生が在籍していますが、語学を身につけたいと思い入学する学生が多いですね。しかし、多くの言語が学べる環境が用意されていても、いざ学ぶとなるとその壁は高く感じることもあるようです。

しかし国際感覚という面でいえば、ひと昔前と比較して今の若者たちは当たり前のように持ち合わせています。アジア圏をはじめ、様々な国の留学生が講義室にいますし、ネイティブの先生方も多く在籍されています。日常的に、廊下で複数の言語が飛び交っているって「すごい環境だな」と思ってしまいます（笑）。4月から私のゼミナールにもアメリカからの留学生が在籍し、日本の伝統工芸を研究しています。国際関係学部の学生たちが、キャンパスにいながら世界と触れ合うチャンスはたくさんあります。



■大学生

私は、フランス留学の際にホストファミリーが同じだった友人やクラスメートと、今でもインターネット通信で交流をしています。アメリカ出身の友人は独特のアクセントのついたフランス語で、私は日本人的なフランス語で話しています（笑）。

現在、主に研究されているのはどんなことですか。

■大学生

フランス語に焦点を絞って学んでいます。昨年はフランスに7ヵ月間ほど留学し、フランス語を勉強しました。言語だけではなくフランスの思想や哲学についても独学で勉強を進めており、その成果を卒業論文につなげていきたいと考えています。

親の影響でしょうか、私は幼い頃から色彩や物の形に興味があり、専門的に勉強したいという思いから神山先生の授業を履修しています。パリコレクションやフランスの街に並ぶブティックなどの華やかな世界への憧れが強かったため、少しでも近づきたいとフランス語を勉強することにしました。フランス語を学んでいくうちに、独特の発音や文化的な背景・歴史を知り、驚くことばかりでますます興味を持ちました。

大学時代に力を入れたことはありますか。

■卒業生

勉強のほか、アルバイトとして紹介されたプロゴルフトーナメントの運営に積極的に携わっていました。学生アルバイトを統括する業務や、時にはキャディーをさせていただきました。キャディーにはゴルフの専門知識が必要ですが、それ以上に体力とその場の空気を読む力が求められます。食事の量も、毎日、今の倍くらい食べていました（笑）。毎年、3月～11月の間は全国のどこかでトーナメントが開催されていますので、静岡県を拠点に東京、新潟、富山、群馬など、修学旅行気分です。アルバイトを楽しんでいました。このアルバイトを通して、他大学に大勢の友人ができたことは大きな財産になっています。

■大学生

当初は自分が勉強したいことだけに真剣に取り組んでいましたが、学んでいくうちにもっと自分自身を成熟させて、柔軟な考え方や発想のできる人間になりたいと思い、まずは品性や振る舞い、挨拶などいわゆる教養の部分も意識しはじめました。

大学で学問を学ぶということは、知識を詰め込んだり、小手先の技術を身につけることではなく、私自身を成長させてくれるものだと感じています。高校生時には本を読むことをあまりしなかった私ですが、知識を得ることは楽しいですし、何より自分自身の成長が実感でき、今では頻繁に読書をするようになりました。部活動には参加していませんが、その時間は課題にあてたり、課題から出てきた疑問を解決するために使っています。

印象に残った授業はありますか。



■大学生

フランス語は楽しく、印象深い授業でした。グループワークが多く、フランス語を話すことに重点を置いていて、テキストもフランスで出版されているものでした。ですから文章やアクティビティが現地と同じように学んでいると実感することができました。また、欧州の文化にとっても興味があったので、2年生の「芸術」や3年生の「芸術表現論」

という神山先生の授業も楽しかったです。授業では先生の熱意がとても伝わってきて、用意されているプリントをまったく見ていないのにどんどん話が進み、神山先生は本当に芸術がお好きなのだと思いました（笑）。

■先生

大好きです（笑）。教壇に立つと人が変わってしまいますね。

■大学生

その熱意に感銘を受けて、私ももっと情熱的にならなければと思います。

■先生

「芸術」というと、美術の場合は展覧会に行き作品を鑑賞するものと思いがちです。しかし授業では、その展覧会は誰が作り、なぜその作品が選ばれたのかといったことを、歴史を遡って解説し、最終的には学生に展覧会を企画させることも行います。学芸員の視点で芸術を理解していることと、どの作品をどのように見せるかという視点を持たなければ、展覧会を組み立てることはできません。国際関係学部で学芸員の資格は取れませんが、私のゼミナール生の中にはここ数年で2名が独自に資格取得に取り組み、学芸員として活躍しています。グローバルな視点を身につけようと入学し、芸術を学んだら面白かったことがきっかけで学芸員の資格を取得する…。モチベーションが上がっ

ている様子を見ると、私としても講義をした甲斐がありますね。

●就職活動、仕事について

現在のお仕事について教えてください。



■卒業生

株式会社ゴルフパートナーという、ゴルフ用品を扱う会社の上田インター店で店長をしています。

主な仕事は、ゴルフ用品の販売や商品の仕入れ、店舗スタッフの取りまとめなどです。お客様のご要望にお応えして、工房でクラブを加工することもあります。狙う場所がピンポイントのゴルフは、極端に言えば打率 10 割が求められます。ボールが右に曲がって困るというお悩みを抱えていらっ

しゃるお客様には、左に曲がるようにクラブを調整したり、お客様に合ったクラブをお薦めしたり…。こだわりのあるお客様も多く大変な仕事ではありますが、信頼していただきご来店いただいたお客様から「この前のクラブ良かったよ」などと言っていただけると、やりがいになりますね。過去には、クラブを購入いただいたお客様を対象に、無料でゴルフを楽しんでいただくようなイベントを企画したことがあります。店長としては売り上げ目標の達成も重要な仕事ですが、様々な形で販促企画を立てながら目標を達成し、お客様へのサービスに還元していきたいですね。

就職活動はどのように進められましたか？

■卒業生

大学3年生の2月から就職活動を始めました。それまではあまり実感がなく、周囲の友人が面接やエントリーシートなどと言い出し、そこで初めて就職がリアルになってきました(笑)。

活動当初は自分がどういった業界に向いているのか分からず、業界を絞ることをしないで、できるだけいろいろな世界を見て、話を聞いてみようと考えました。

結果的には、高校の部活や大学時代にアルバイトで関わってきたゴルフ業界への就職を選択しましたが、決め手は「好きなことを仕事にしよう」という気持ちでした。

現在のお仕事に、学部の学びが役立っていることはありますか？

■卒業生

「マーケティング論」の授業で、小売業について学べたことはとても役立っています。経済学や経営学の教科書は今でも参考にしています。当時は一生懸命勉強しましたが、見直してみると新たな発見がありますし、もう一度勉強したいなとも感じます。

店長という立場は、経営者のようなものです。店舗を経営していくにあたり自分から動かなければ、何も始まりません。大学で培った知識を土台に、より良い方向に店舗経営を行うにはいかにすべきかを常に考えています。

●5年後に向けて

将来の夢を教えてください。

■大学生

将来は、フランス語を活かせる仕事に就きたいと考えています。具体的には、空港のグランドスタッフを志望しています。様々な国の人と接し、異文化に触れ、刺激を受けながら自分自身を高めてい

くことができるといいですね。

■卒業生

常々、プライベートブランドを作りたいと考えています。まだまだ成長過程にある弊社の良いところは、いろいろなことにチャレンジできること。すでに、世の中のゴルファーから絶大な支持を受けているゴルフクラブもありますが、こういったヒット商品为目标に様々なアイデアをカタチにしてブームを巻き起こし、会社はもちろん社会に貢献していきたいですね。入社して4年目、今、仕事に対する意欲がますます高まっているところです。

■先生

美術史を研究しながら世界の現代美術の最先端を見ていると、芸術の変化の仕方は社会の動きと密接に関係していることがよくわかります。私たちの生きている社会と芸術との関係性を、今後、さらに明らかにしていきたいという強い気持ちがあります。「絵をどのように観たらよいかかわからない」と、よく耳にします。しかし、芸術作品とは社会の営みを察知し、アートという方法で具体化したものです。とっつきにくいところもあるかも知れませんが、芸術が生まれる背景には必ずこの社会の営みがあるのです。もちろん研究と並行して、これまで通り創作活動は継続させていきます。

●高校生へのアドバイス

高校生の頃にやっておけばよかったことはありますか？

■大学生

旅行ですね。高校生の頃は家と学校との往復で、積極的に外に出ていくことはしませんでした。旅行を通して知らなかったことに出会い、新たな発見をする。もう少し広範囲に行動しておけば、視野も広がったのではないかと思います。



■卒業生

何のために学ぶのか。それは理解して勉強に取り組んできたのですが、勉強することで自分がどうなりたいのかという部分が曖昧でした。そうした過去の反省もあり、スタッフに対して「ゴール意識」という言葉をよく使っています。勉強だけに限らず、何事にも目的意識を持つことが大切です。

勉強方法や進路についてのアドバイスをください。

■卒業生

例えば、いつまでにこの参考書を1冊終わらせるのか、という目標を立てて勉強することでメリハリが出てきます。こうした行動がやがては、大学での学びに対する姿勢や社会に出てからの仕事の進め方につながるのではないのでしょうか。社会人になればどんな仕事にも納期があり、期間内にどう効率的に仕事をしていくかが重要なポイントになります。その素養を高校生のうちから身につけておくことは、無駄にはなりません。

また、高校の先生やアルバイト先の上司や先輩など、年上の方々から聞く経験談には学べるものがたくさんあります。自分自身の将来のイメージを具体的にするためにも、ぜひ、積極的にコミュニケーションをとってください。

■大学生

私が高校生の頃は、とにかく課題に追われる毎日でした。何か気になることがあっても他の課題も

あるために、深く追究することができません。何のために勉強しているのかという気持ちになりましたね。そんな経験からまずは、好きな教科に力を入れることをお勧めします。苦手教科はその後に集中して勉強すればいいと思います。

■先生

興味を持てることを探すのが一番ではないでしょうか。それが難しいようであれば、どんなことにもチャレンジしてみる姿勢を持つこと。これが高校生のうちに準備できることですね。また、自分の好きなこと、自分に向いているのは何かを考える時間を持つことも大切です。国際関係学部に入學してくる学生の多くが、英語が好きだといいます。大きな枠ではありますが、それだけでも将来を考える上で、ヒントや手助けになるとと思います。

あとは、素直な気持ちを持つことですね。なかなか自分自身を客観的に見ることはできませんから、高校生の頃から信頼できる先生や友だちなど周囲にアドバイスを求めることで、素直に自分と向き合う時間を作ってください。

●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

神山真理先生

日本大学 国際関係学部国際教養学科 教授

私立女子美術大学付属高等学校出身。女子美術大学芸術学部産業デザイン科卒業、東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。日本大学国際関係学部国際交流学科教授を経て、現職

平成3年度文化庁買上優秀美術作品

国内外で個展・企画展多数

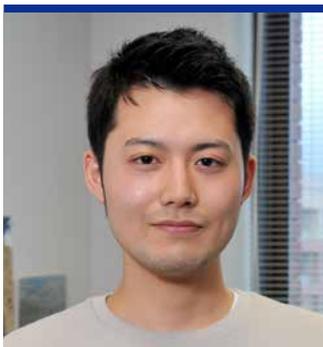


■卒業生

山田直人さん

株式会社ゴルフパートナー 上田インター店 店長(2016年取材当時)

私立日本大学三島高等学校出身。日本大学・国際関係学部・国際ビジネス情報学科(2011年4月から「国際総合政策学科」「国際教養学科」の2学科に学科改編)卒業。現在は上田インター店の店長としてスタッフをまとめながら、商品開発、キャンペーン施策にも関わり、より良い店舗となるように日々努力している。



■大学生

東方俊樹さん

日本大学・国際関係学部・国際教養学科4年生(2016年取材当時)

山梨県立甲府西高等学校出身。フランス語圏の文化や生活に憧れ、在学中は7ヶ月の留学を経験する。就職活動中の現在でもフランス、欧州圏を視野に入れた活動を行っている。